

(重要) 熊本日日新聞 2018 年 7 月 15 日 (日) 朝刊  
「新生面」における本学教育学部の進路状況  
への言及について

教育学部長

熊本日日新聞 2018 年 7 月 15 日 (日) 朝刊「新生面」は、熊本県・市の教員採用試験(小学校)の志願倍率の低さに関連し、教師を支援するシステムの不足等、学校教育を取り巻く状況の問題点を的確に指摘するものであり、私たち教員養成を担当する大学人にとっても共感するところの多いものでした。

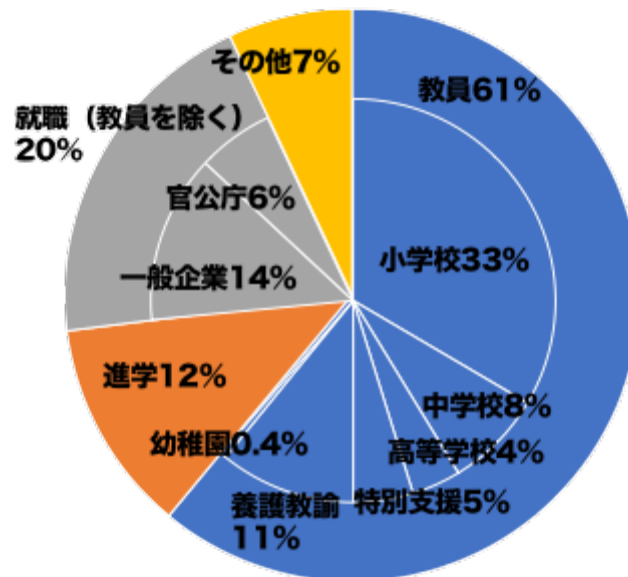
その一方で、同記事において行われた本学教育学部の進路状況への言及(「熊本大学教育学部でも卒業生の半数は教職を選ばない」)は、著しく正確さを欠き、教員を目指し日々努力を続けている学生たちやその保護者の皆様方、貴重な時間を割き教育実習にご協力いただいている協力校の先生方など、多くの関係者に誤解と失望を与えかねないものです。

つきましては、このような報道により本学教育学部についての誤った理解が広がらないよう、下記の通り近年の進路状況を詳しくお伝えするものです。

記

- ・本学教育学部の卒業者には、教員養成を目的としない課程(地域共生社会課程、生涯スポーツ福祉課程)の卒業者(60名程度)が含まれます。これらを除いた教員養成課程の卒業者数は、この春(2018年3月)の場合230名です。
- ・そのうち、教員就職者(正規採用と臨時採用の合計)は140名(6月時点の速報値)です。
- ・以上から、本学の教員養成課程の卒業者全体に占める教員就職者の割合は60.9%になります。
- ・しかし、このことから、それ以外の教員養成課程卒業者(39.1%)が「教職を選ばなかった」とは言えません。なぜなら、卒業時点で教員就職しなかった人の半数程度は、大学院(教職大学院を含む)への進学者や教員採用試験受験準備中の人で占められているからです。

- ・この春の卒業生の進路状況（6月時点の速報値）を詳しく紹介すると、教員養成課程の卒業生 230 名のうち、教員就職が 140 名（60.9%）（うち正規採用 92 名、臨時採用 48 名）、大学院進学が 30 名（13.0%）、一般就職（企業・公務員等）が 45 名（19.6%）、その他教員採用試験受験準備中等が 15 名（6.5%）となっています。（下図参照）



- ・近年、文部科学省は、大学院進学者を除いた場合の各大学の教員就職率を算出していますが、この算出方法によれば、本学の教員養成課程のこの春の卒業生（大学進学者を除く）に占める教員就職者の割合は 70.0% になります。
- ・ところが、「熊本大学教育学部でも卒業生の半数は教職を選ばない」という「新生面」の記事を読んだ読者は、「教員を目指して教育学部に入学し、教育実習等で学校現場のお世話になった学生の半分は教員にはならず、一般就職を選んでしまうらしい」、というふうに誤解する可能性があります。しかし、これは事実と反します。実際には、本学の教員養成課程の卒業生のうち、卒業時点で一般就職を選ぶのは約 20% にすぎません。
- ・また、本学部を卒業して公務員等になった人の中には、大学時代の経験を活かし、教育行政や児童福祉等の面から子どもの教育に貢献している人が多数いることも付言しておきたいと思います。